

会 議 録

会議の名称	平成23年度第4回行田市地域活性化推進委員会
開催日時	平成23年12月15日(木) 開会：午後3時 閉会：午後5時00分
開催場所	市役所305会議室
出席者氏名	川辺秀夫委員、松井秀二郎委員、戸塚昌利委員、新井重人委員、今村武蔵委員、柳政男委員、小河原総合政策部長、河野観光プロジェクト推進室長、小巻商工観光課長、小林農政課長、長谷川福祉課長、新井高齢者福祉課長
欠席者氏名	長谷川浩委員、浪江生活課長、岡村まちづくり推進課長
事務局	企画政策課：小池課長、五十嵐主幹、風間主査
会議内容	司会 小池企画政策課長 議事 (1) 地域活性化についての意見交換 (2) その他
会議資料	○まち歩き観光による地域振興～観光リピーターの創出～ ○第1回及び第3回地域活性化推進委員会が出された課題と意見 ○中心市街地における「にぎわいの創出」
その他必要事項	傍聴者 なし

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司 会	1 開会 2 会長あいさつ 3 議事
司 会	<ul style="list-style-type: none"> ・早速、議事に入らせていただく。ここからは、委員会設置要綱第7条第1項の規定に基づき、会長に議事の進行をお願いする。
会 長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、暫時、議長を務めさせていただく。議事の円滑な進行に皆さんのご協力をお願いする。 ・はじめに、事務局に伺う。本委員会の会議は、原則公開となっているが、本日の審議内容に、非公開とすべき事項はあるか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・特段、非公開とすべき事項はない。
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・特段の非公開事項はないとのことであり、公開して会議を進める。 ・議事の(1)、地域活性化についての意見交換ということで、事務局の説明を求める。
事務局	<資料「まち歩き観光による地域振興」に基づき説明>
議 長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局で今までの意見を踏まえ、今回マップの作成を提案した。歩く観光を推進していくなかで、特に、中心市街地の活性化を目指していきたい。マップを核にして、行田に来てもらう方策を考え、満足して帰ってもらい、リピーターにつなげていきたい。
商工観光課長	<ul style="list-style-type: none"> ・マップの統一を考えたことがあるが、観光には、色々なまち歩きがある。これまでも観光客には、何種類ものマップを渡して、色々な視点で選択をしてもらっている。今回の提案のような委員会でのマップ作成も面白いのではないか。
委 員	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットを利用して観光地の情報を集める観光客の方が増えている。市内外へPRするため、行田市のホームページをわかりやすくしてもらいたい。 ・提案の中で、行田の食べ物として、「フライ」「ゼリーフライ」が紹介されているが、他に青大豆商品もお勧めできるのではないか。 ・提案の中で、「のぼうの城コース」「手づくり体験コース」「味わいコース」が例示されているが、行田は「水のまち」なので、ぜひマップコースの中に、水辺ウォークをお勧めしたい。本格的な健脚コース（10km以上）の設定もしてほしい。

<p>観光プロジェクト 推進室長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 11月27日に開催された「駅からハイキング」は、行田市とJR・秩父鉄道の共催で行った。通常のハイキングの参加者は、300人～500人であるが、今回「のぼうの城」の人気もあり、約1,000人の参加者であった。参加者に話を伺ったが、皆さん行田市に対して好印象であった。今回のハイキング参加者は、リピーターになる可能性が高い。 ・ マップには、歩いた場合の目的地間の所要時間やトイレの場所、飲食店の紹介を掲載するよう作成し、さらにお店で使えるクーポンがついていれば良いのではないか。お店の掲載に関しては、無料ではなく、有料にすべきである。 ・ 市民プール横のバスターミナルを観光地用に変えていかなければならない。
<p>商工観光課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来年早々に、バスターミナルにおもてなし物産館を建て、おもてなし甲冑隊を常駐させる。おもてなし甲冑隊には、お土産の販売や観光案内をしてもらう予定である。さらに、観光バス優先に駐車場を整備していく。観光バスをバスターミナルへ案内させることも考えている。また、浮き城の小路へ誘導するために、道の舗装も変えていきたい。
<p>委 員 商工観光課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 商工センターの有効活用はどのように考えているのか。 ・ 観光案内所兼物産販売所を考えている。活性化のために街の中心に物産館があることが必要である。また、休憩スペースとして利用してもらうことも考えている。
<p>委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光案内を専門にしている足袋蔵ミュージアムとのすみ分けは、どのように考えているのか。商工センターは、物産販売のみに特化しても良いのではないか。また、商店街の意識改革はどこがどのようにするのか。
<p>商工観光課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ すみ分けは考えていない。今年、来年と観光客がさらに増えるのが予想される。行政としては「待ったなし」であり、あらゆる方策を打っていかねばならないと考えている。
<p>委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自主的に観光客をおもてなしするための成功事例を作っていくことにより、自然に意識改革がされるのではないか。 ・ 現在は、B級グルメの影響もあり、「足袋」ではなく「ゼリーフライ」

<p>商工観光課長</p>	<p>の行田である。「ゼリーフライ」が、全国区で有名になったような成功事例を商店街にも作りたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新聞で「〇〇商店街が□□を開催。」という記事が目についてしまう。 ・観光客をもてなすにあたり、商店街の協力なしではできないと考えているので、常に連絡を取り合っている。
<p>観光プロジェクト 推進室長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前々から企画をしていた八幡神社を中心にした手づくり市の開催が決まった。軽トラ朝市をからめて盛り上げたい。来年2月4日の予定である。
<p>福祉課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・行田の観光を考えると日帰りが主であるため、お土産よりも食事に重点を置くことが大事である。食事がおいしければ、リピーターとなって行田を訪れてくれる。
<p>委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お店にマップやパンフレットが置いてあり、観光客と会話をしながら、行田の良いところを案内できるようになってほしい。地域がホスピタリティーを持った「まち」に変わっていかないといけない。観光客に気軽に声をかけることができる「おもてなしの心」を持った「まち」に変わっていければよい。
<p>委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マップを分かりやすく分類して配布すべきである。3ヶ所程度の歩く観光の拠点となるべき場所、例えば行田市駅などに全ての分類されたマップを置く。 ・5～10年かけて、長期的な計画で裏通りの整備、景観の整備を始めなければならない。
<p>委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先日、商工会議所が主催した体験モニターツアーは、大変好評であった。
<p>委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの高齢化社会に向けてコンパクトシティーを考えると、中心市街地の重要性が増している。
<p>議 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・この委員会でなぜ観光を議論しているのか、原点を考えると「賑わいの創出」である。中心商店街を外して議論するわけにはいかない。
<p>商工観光課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年、来年と行田が市制60年で初めて全国から注目を集めるまたとないチャンスである。市や商店、市民の皆さんが、それぞれ何ができるのかを考えてほしい。
<p>委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ、観光振興をやるのかと考えると、観光客を呼び込んで行田の経済を活性化させないと行政サービスが低下し、自分たちの生活環

<p>農政課長</p> <p>委員</p> <p>議長</p> <p>司会</p>	<p>境が悪くなっていくことを市民の皆さんが自覚し、地域活性化のための共通意識を持たなければならない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 行田の足袋産業の技術を廃れさせず、後世に残していかなければならない。足袋の縫製体験ツアーがあれば、行田ならではのものになるのではないか。 ・ 農業の体験ツアーを計画しているのか。 ・ 体験ツアーは考えてはいない。 ・ 行田在来青大豆をイオングループと提携し、販売していくための調整中である。行田にしかない希少価値を高めるため、今後、商標登録もしていく。値段が高くても味がよければ必ず売れる。行田市外で注目を集めているので、もっと市民が良さに気づいてほしい。 ・ 田んぼアートのギネス認定を目指している。図柄には、映画のワンシーンを考えている。ギネスに田んぼアートのための新カテゴリーができた。来年は、ギネスが新たに設定した基準をクリアし、認定を目指す。6月に田植えをし、7月末に申請をする予定である。 ・ 来年を行田のあらゆる「キッカケ」にしていきたい。 ・ それでは、以上をもってすべて終了とし、これをもって議長の職を解かせていただく。 ・ 本日出された意見等を参考に、事務局で提案をさらに精査し、委員の皆さんへ提供していきたい。 ・ 以上をもって、第4回目の行田市地域活性化推進委員会を閉会とする。 <p style="text-align: center;">< 閉会 ></p>
---	---